

2019/8/25 (Sun.) 第119号

日本医師連盟ニュース

日本医師連盟ニュース
 - 発行所 -
 日本医師連盟
 東京都文京区本駒込5-73-3
 駒込SKビル1F
 〒113-0021
 TEL: 03-3947-7815
 FAX: 03-3947-2662
 E-mail: info01@nichiiiren.jp

<http://www.nichiiren.jp/>

定価 1年400円 (但し日医連負担金を含む)

参議院比例代表選挙

羽生田 たかし氏 2期目当選!!



7月21日 万歳三唱する日医連役員ら

第25回参議院議員選挙は、7月21日投開票が行われた。
 比例代表(全国区)に日本医師連盟推薦(自民党公認)で立候補していた、
 羽生田たかし参議院議員は、15万2807票(自民党16位)で2期目の当選を果
 たしたが、1期目に比べ9万7千余票を減らした厳しい選挙結果であった。



7月21日 ダルマの目入れ

かて票を固めていただいた」と
 関係者に謝意を示した。羽生田
 氏は「今回の選挙は大変厳しか
 ったが、考えていたよりも早く
 当確を出していただき、感謝申
 し上げる。今後は日医と密接に
 連携し、仕事をしていきたい」と
 述べ、詰めかけた支援者一人
 ひとりと握手を交わし、その後、
 地元支援者が待つ群馬県前橋市
 の選挙事務所に向け日医会館を
 出発した。

散会后、横倉委員長は、当確報
 告のため自民党本部へ向かった。

社会保障関係の候補者が 乱立する厳しい選挙戦を 勝ち抜いた

開票日当日は、横倉義武日本
 医師連盟委員長をはじめ、日医
 連役員(全国の医師連盟役員が、
 日本医師会館1階ロビーに参集

し、支援団体・関係者とともに
 開票の様子を見守った。

午後八時五分過ぎに、横倉委
 員長宛に「日本テレビから羽生
 田たかし氏の当選確実が報じら
 れた」との情報が伝わり、直後
 に羽生田氏が姿を現し、会場内
 は大きな歓声と拍手に包まれ、

羽生田氏は支援者に深々と頭を
 下げた。

そのうち、横倉委員長の発声
 で万歳三唱が行われ、横倉委員
 長は「今回の選挙では、全国比
 例区で自民党公認の社会保障関
 係の候補者が十人立候補し、大
 変厳しい選挙戦だった。そのな

たけみ敬三氏は東京選挙 区で当選

たけみ敬三参議院議員は、東
 京選挙区において五十二万五千
 三百二票を獲得し、五回目の当
 選を果たした。

写真で振り返る参院選



③7月4日 出陣式 支援団体の皆さまとともに



②7月4日 出陣式で挨拶する横倉委員長



①7月4日 出陣式の横倉委員長と羽生田候補



⑥7月19日 群馬県前橋市羽生田たかし総決起大会



⑤7月4日 選挙車で遊説に出発



④7月4日 出陣式で挨拶する羽生田候補

羽生田先生からのご寄稿いただきました

参議院議員

羽生田 たかし 活動報告



出陣式にて

いつこともあり、各県・各地区で現状の課題についてご意見いただきました。そのなかで、労基署による医療機関を狙い撃ちしたかのような立ち入り調査が問題提起されました。

東京では名の知れた病院が労基署の立ち入り調査を受け、土曜日の診療を止めるといった事態まで起こりました。実際に地域医療の現場を回ると、医師偏在や医療職種の確保に頭を抱えている地域が多くありました。

先般行われました第二十五回参議院議員通常選挙におきまして、全国の皆さま方のご支援により二期目の国政に送っていただきました。

大学病院のある地域では多少なりとも派遣機能が維持できている一方、その医療圏を一步出ると医師偏在が顕著であり、休日急患では機能の維持すら危機的状況でした。

「医師の働き方改革などできる訳ないだろう」とそうした意見もありました。

医師の確保ができていない地域でも、医師が遠路の通勤や単身赴任を強いられているケースが



一人ひとりの手を握り

療は医師・医療関係者の献身的な自己犠牲によって何とか支えられている現場を目の当たりにしてきた一年でありました。

日本看護学校協議会の趣意にもある「看護職養成の道は多様であってよい」という考え方は大変重要で、いくら正看護師資格者を多く輩出しても地元定着率が低ければ、地域医療は崩壊してしまいます。

医療は医師だけでは維持できず、医師を中心としたあらゆる医療職種によるチーム医療が必要となっており、この連携こそが地域医療を支える基本であります。近年は医療と介護が一体的に連携し相互に支えていく地域包括ケアなど、介護においても医療との切れ目のない提供体制が必要とされているところであります。

しかし、今回の参議院議員選挙では、自民党の比例代表候補三十三人のなかで、社会保障関係の候補者が十名を占め、合計百二十万の得票が分散しました。これにより多くの同志が議席を確保できず、私自身も約十

万票を減らす結果となりました。それぞれの職種に代表があり、それぞれ必要な主張や方向性があることも大切であると思いますが、国民のためにも患



高崎市医師会決起大会

私が自民党の「医師の働き方改革に関するPT」の責任者と



宮城県医師連盟決起大会

地元定着率のとくに高い医師会立学校からの人材確保がなくなったことは地域医療においては大きな損失があると感じています。学生だけでなく教員や指導教員の確保など、さまざまな要因が背景となっている地域も見受けられました。改めて、勤務医・開業医を問わず、地域医



熊本県医師連盟決起大会

者のためにも過不足なく必要な医療、介護を受けられる提供体制と財源の確保が今の社会保障に最も重要であると考えます。今こそ、医療職種が手を取り合い、政府に向かって声を出していく代表をつくる時です。そのためには、各医療関係団体が政策協定を締結し推薦議員を絞り込む必要があります。このままでは全滅する危険があります。

今回の結果は大変厳しいものであり、多くの皆さまにもご心配とご心労をお掛けしましたことをお詫び申し上げます。しかし、六年間の重責をしっかりと受け止めさらなる精進と研鑽を積み、私の人生における集大成として医師会とともに心を一つにして取り組んで参ります。

早々にこのような寄稿の機会を与えていただきました横倉義武委員長をはじめ日本医師連盟の役員、関係各位のご配慮に感謝を申し上げます。



群馬県北毛地区決起大会



終盤戦ふるさと群馬にて



京都府医師連盟決起大会



総決起大会（前橋地区）



静岡県中部地区決起大会



医療への熱い想いを



投票日万歳



総決起大会にて訴え

自見先生からのご寄稿いただきました

参議院議員 自見はなこ 活動報告

「国民医療の発展に向けて」



日医会館にて、羽生田先生の当確が出て万歳三唱

日本医師連盟の先生方におかれましては、平素より多大なるご理解とご支援を賜り、篤く御礼申し上げます。
七月二十一日に投票が行われた第二十五回参議院議員通常選挙においては、羽生田たかし先生を熱烈なご支援で再び国会に送って下さいます。誠に有り難うございます。今回、自民党比例区には医療系団体から十人もの候補者が立ち、大変厳しい戦いとなりました。私も、応援のため全国を回らせていただき、各地の医師連盟の先生方とともに羽生田先生へのご支持を訴えさせていただくなかで、かつてなく厳しい戦いであると強く感じました。そのような中、患者さんの命に対し最も重い責任を負う医師として、わが国の人口動態や財政状況を踏まえ



第2回ワクチン勉強会にて。(左から)呼びかけ人の安藤高夫先生、三ツ林裕巳先生、講師の岡田賢司先生、峯真人先生とともに

最適な医療・介護・福祉提供体制を構築するため、医師会・医師連盟を代表してしっかりと政策を語り、国民に伝え、見事勝利を挙げた羽生田先生に心から敬意と祝意を表します。また、選挙区においても、東京の武見敬三先生、埼玉の古川俊治先生をはじめ、志を同じくする先生方が皆さまのご支援のもとで数多く当選されましたこと、心から嬉しく思います。選挙が終わりました。これから年末の診療報酬改定に向けた議論も本格化して参ります。政治において、票は力です。地域医療を守り、国民皆保険制度を堅持するため、我々医師の代表が大きな力をもって議論に望まなければなりません。日本医師連盟の先生方におかれましては、よりいっそう力強いご支援を賜りますよう、衷心よりお願い申し上げます。
若手議員によるワクチン勉強会について



野田聖子先生とともに、尾辻秀久先生の応援で鹿児島に

平成二十五年に予防接種法が

改正されてから六年が経過し、その間、予防接種行政に関するさまざまな課題が浮かび上がってきました。災害時や感染症患者数の増加に伴う需要増大等によりワクチンの供給体制における問題が指摘されるほか、ワクチンギャップ（海外では公的接種となっているが、わが国では定期接種化されていないワクチンの存在）についても、未だ完全には解消されていません。また、麻疹・風疹流行などへの対応も急務です。さらに、造血幹細胞移植後の再接種についても、免疫を失った患者さんへの支援が必要です。加えて、中長期的には国立感染症研究所、地方衛生研究所の予算面も含む体制の強化や、データ活用も含めた研究開発の推進を通じた、わが国におけるワクチン産業の国際競争力強化も不可欠です。これらの課題に対処し、国民

が安心して予防接種を受けることができる環境の整備を推進するため、若手国会議員の呼びかけで勉強会を開催することいたしました(呼びかけ人代表：自見はなこ)。第一回は五月三十日に開催し、元国立感染症研究所感染症情報センター長の岡部信彦先生を講師にお迎えして、「わが国におけるワクチン行政の現状と課題について」をテーマにご講演いただきました。続く第二回は六月二十五日に開催し、ワクチン接種の現場からの声として、日本小児科学会予防接種・感染症対策委員会委員長の岡田賢司先生と、日本小児科医会理事の峯真人先生を講師にお迎えし、それぞれ「予防接種法改正を見据えた日本小児科学会からの提言」、「ワクチン接種現場における話題・問題」をテーマにご講演いただきました。勉強会には、日本医師会、日本小児科学会、日本小児科医会、日本産婦人科医会のほか、製薬メーカーや卸売業団体などからも多数のご出席をいただき、大変有意義な意見交換をすることができました。秋以降には、研究開発の推進や、流通備蓄等安定供給体制の整備などにスポットを当てていきたいと考えています。ワクチンを巡る問題は前述のとおり山積していますが、今後、一年半〜二年をかけて、じっくりと議論を深め

て参りたいと存じます。
難聴対策推進議員連盟提言 申し入れについて



羽生田先生の応援で訪れた群馬県にて、ぐんまちゃんとツーショット

近年、難聴者を取り巻く状況が大きく変化しています。遺伝子診断・画像診断などによる早期発見や疾患に応じた治療が可能となり、適切な治療による音声言語の獲得がこれまで以上に期待される一方で、これらの環境変化に応じた社会制度の整備が追いついていない現状があります。また、新たな治療法が適用できないこともや、人工内耳に順応できなかったこともなどに対しては、手話の獲得をはじめとする多様な選択肢による支援が必要です。こうした激変する環境のなかで、多くの保護者は、こどもの出生後間もない時期から十分な情報や選択肢などを示されず、発達や発育に見通しが立たないまま不安を抱えており、さらに、早期発見・介入・療育開始の機会を逸している難聴児も多いと考えられます。加えて、難聴と認知症の関係についても、二〇一七年七月の国際アルツハイマー病会議(AAIC)におけるランセット国際委員会での発表で「予防できる要因のなかで、難聴は認知症の最も大きな危険因子である」と指摘されるなど、認知症予防のためにも難聴対策が重要であることがわかってきています。こうした状況に鑑みて、すべての新生児難聴の早期発見・早期治療につながる新生児への検査実施率の向上や、難聴児教育の充実をはじめ、認知症対策にも資するよう、補聴器や人工内耳等の新たな医療

機器開発も視野に入れ、後天性加齢性も含むすべての難聴対策に取り組みすることを旨とし、自民党国会議員による「難聴対策推進議員連盟」(会長：石原伸晃衆議院議員、事務局長：自見はなこ)を設立いたしました。

議連では、まずは新生児時期・小児期の難聴対策に焦点を当て、四月十日の設立総会から、五月十五日、五月二十八日、六月四日と議連総会を開催したほか、海外での取り組みに関する議連委員の勉強会も一度開くなど、活発な議論を経て政府への提言を取りまとめ、六月六日に根本厚労大臣、柴山昌彦文部科学大臣に申し入れを行いました。提言では、先天性難聴の発生頻度が千人に一人と、先天性疾患のなかでも高いにもかかわらず、公費負担による新生児聴覚検査の実施率は低く、また新生児難聴を巡る医療体制、療育体制、教育体制などに



ラジオ収録にて。日本産婦人科医会の木下勝之会長(6月24日)、関西経済連合会の松本正義会長(8月6日)をゲストにお迎えして

は地域により差がみられることについては是正を求め、新生児期・小児期における難聴対策の充実を強く要望しました。その結果、六月七日発表の厚生労働省「難聴児の早期支援に向けた保健・医療・福祉・教育の連携プロジェクト報告」や、政府の予算編成等における指針となる骨太の方針に議連として要望した施策を盛り込むことができました。秋からは、高齢者の難聴や医療機器の課題についても取り組み、年内にはわが国において難聴対策の理念となる「ジャパン・ヒアリング・ビジョン」(仮称)を打ち立てるべく、引き続き全力で取り組んで参ります(提言書の詳細は、自見はなこオフィシャルサイトを参照下さい)。



根本厚労大臣への難聴対策推進議連提言申し入れ



地元九州のわっしょい百万夏祭りに今年も参加しました

参議院比例代表選挙 厳しい選挙結果

第25回・第23回参議院選挙 日本医師連盟推薦候補者 得票数比較 令和元年7月22日作成

	第25回 令和元年7月21日投開票 羽生田たかし			第23回 平成25年7月21日投開票 羽生田たかし			得票数の差
	「羽生田たかし」 得票数	A①会員 (平成30年12月)	会員1人当たり 得票数	「羽生田たかし」 得票数	A①会員 (平成24年12月)	会員1人当たり 得票数	
北海道	2,920	2,229	1.31	5,222	2,357	2.22	-2,302
青森県	663	670	0.99	3,187	720	4.43	-2,524
岩手県	1,868	682	2.74	2,721	726	3.75	-853
宮城県	3,131	1,456	2.15	2,991	1,376	2.17	140
秋田県	1,825	596	3.06	1,300	604	2.15	525
山形県	1,068	678	1.58	1,215	708	1.72	-147
福島県	1,555	1,076	1.45	2,184	1,092	2.00	-629
茨城県	2,229	1,385	1.61	2,089	1,377	1.52	140
栃木県	1,929	1,154	1.67	3,689	1,177	3.13	-1,760
群馬県	22,047	1,298	16.99	43,163	1,344	32.12	-21,116
埼玉県	4,489	3,549	1.26	8,235	3,468	2.37	-3,746
千葉県	2,774	2,938	0.94	4,384	2,942	1.49	-1,610
東京都	11,337	9,911	1.14	14,840	9,881	1.50	-3,503
神奈川県	6,288	5,460	1.15	8,184	5,267	1.55	-1,896
新潟県	1,210	1,238	0.98	1,815	1,280	1.42	-605
富山県	1,214	684	1.77	1,185	694	1.71	29
石川県	2,299	701	3.28	3,130	718	4.36	-831
福井県	1,084	449	2.41	2,986	478	6.25	-1,902
山梨県	1,456	532	2.74	942	543	1.73	514
長野県	1,599	1,224	1.31	3,195	1,230	2.60	-1,596
岐阜県	3,905	1,284	3.04	6,819	1,309	5.21	-2,914
静岡県	5,025	2,249	2.23	3,871	2,192	1.77	1,154
愛知県	5,952	4,635	1.28	9,822	4,474	2.20	-3,870
三重県	1,032	1,188	0.87	2,523	1,237	2.04	-1,491
滋賀県	889	842	1.06	1,626	806	2.02	-737
京都府	1,781	2,159	0.82	2,642	2,211	1.19	-861
大阪府	4,538	7,543	0.60	9,314	7,712	1.21	-4,776
兵庫県	4,741	4,545	1.04	6,874	4,575	1.50	-2,133
奈良県	1,513	1,037	1.46	2,435	1,050	2.32	-922
和歌山県	686	909	0.75	1,407	960	1.47	-721
鳥取県	1,209	399	3.03	1,494	411	3.64	-285
島根県	975	475	2.05	1,583	501	3.16	-608
岡山県	2,084	1,348	1.55	2,835	1,363	2.08	-751
広島県	2,658	2,273	1.17	4,736	2,321	2.04	-2,078
山口県	2,319	1,081	2.15	3,573	1,118	3.20	-1,254
徳島県	988	642	1.54	1,635	692	2.36	-647
香川県	1,141	722	1.58	1,051	738	1.42	90
愛媛県	1,929	1,040	1.85	4,049	1,090	3.71	-2,120
高知県	824	496	1.66	2,160	524	4.12	-1,336
福岡県	16,115	3,926	4.10	29,880	3,882	7.70	-13,765
佐賀県	1,646	636	2.59	3,383	643	5.26	-1,737
長崎県	3,475	1,173	2.96	6,558	1,235	5.31	-3,083
熊本県	5,004	1,308	3.83	8,318	1,349	6.17	-3,314
大分県	1,663	875	1.90	2,251	902	2.50	-588
宮崎県	2,170	788	2.75	3,380	800	4.23	-1,210
鹿児島県	4,140	1,168	3.54	5,161	1,204	4.29	-1,021
沖縄県	1,398	763	1.83	3,781	770	4.91	-2,383
都道府県計	152,807	83,414	1.83	249,818	84,051	2.97	-97,011

「得票数が伸び悩んだ原因について、しっかりとした分析が必要」

第二十五回参議院議員選挙では、比例代表（全国区）に日本医師連盟推薦（自民党公認）で立候補した羽生田たかし参議院議員が、十五万二千八百七票（自民党十六位）で何とか二期目の当選を果たしたものの、一期目にくらべ九万七千余票を減らした厳しい選挙結果であった（第25回・第23回参議院選挙 日本医師連盟推薦候補者 得票数比較）。

横倉義武委員長は、選挙結果を受けて、羽生田氏が二期目の当選を果たした点には、「すべての人に優しい医療・介護が提供できる社会の実現に向けて、よりいっそう活躍されることを期待する」とした一方で、「今回得票数が伸び悩んだ原因については、当選したことをよしとせず、しっかりと分析しなければならぬ。また、地域の事情があることから、都道府県

においても分析が必要だ。それらを踏まえて、今後の医師会における医政活動のあり方を抜本的に見直していかなければならぬ」との考えを示した。

九月十七日に開催される日医連執行委員会で、参議院選挙結果が報告されるとともに、選挙結果の分析、今後の検討課題について話し合われる予定である。

医師立候補者の当落

今回の参議院選挙において、比例代表では羽生田氏（現・自民）、小池晃氏（現・共産）、梅村聡氏（元・維新）、選挙区では埼玉県古川俊治氏（現・自民）の四名が当選を果たしたが、長野県の小松裕氏（新・自民）は落選した（第25回参議院選挙 医師立候補者の当落一覧）。

令和元年7月22日作成

**第25回参議院選挙
医師立候補者の当落一覧**

(比例代表)

当	羽生田たかし	71	現	自民
当	小池 晃	59	現	共産
当	梅村 聡	44	元	維新
落	塩見俊次	70	新	立憲
落	浜田 聡	42	新	N国

(選挙区)

埼玉県	当	古川俊治	56	現	自民
長野県	落	小松 裕	57	新	自民
広島県	落	玉田憲勲	61	新	無

※日医連調べ（順不同）